

# クイズのこたえと解説

P9～11のクイズに挑戦してね!

- Q1 2 **コシアブラ** 木うその材料には、ホオノキやコシアブラなどが使われます。木うそを作るのに白い木が好まれ、また 木うその羽の部分<sup>はね</sup>をカールするの<sup>はね</sup>に、やわらかい材質<sup>ざいしつ</sup>の木が適<sup>てき</sup>しています。
- Q2 2 **病気の流行** 江戸時代に太宰府ではやり病<sup>やまい</sup>があり、五条でもたくさん<sup>いのち</sup>の人が命<sup>いのち</sup>を落<sup>おち</sup>としたと伝<sup>つた</sup>わります。当時の五条の人々が太宰府天満宮<sup>あまのみや</sup>に祈願<sup>いのり</sup>したところ、病人<sup>びょうにん</sup>が出<sup>で</sup>なくなったことから、そのお礼<sup>れい</sup>として八朔<sup>やっしゅく</sup>の千燈明<sup>せんとうめい</sup>の行事<sup>ぎぎ</sup>が始<sup>はじ</sup>まったといわれています。
- Q3 1 **太宰府小学校** 平成5年度まで、四王寺集落<sup>しおうじしゅうらく</sup>からふもとの太宰府小学校<sup>たさいふしょうがっこう</sup>へ児童<sup>じどう</sup>が通<sup>とほ</sup>っていました。雨の日も夏の暑い日も冬の寒い日も、子ども達はこの道<sup>みち</sup>を通<sup>とほ</sup>って学校へ通<sup>とほ</sup>っていました。
- Q4 3 **彫刻家** 富永朝堂<sup>とみながあさどう</sup>は、「木の中に棲<sup>す</sup>む作家<sup>さっか</sup>」と言<sup>い</sup>われた日本木彫界<sup>もくちようかい</sup>を代表<sup>ていひょう</sup>する彫刻家<sup>ちようこくか</sup>の一人です。水城小学校<sup>みづしろしょうがっこう</sup>や学業院中学校<sup>がくぎやういんちゅうがっこう</sup>にも、富永朝堂<sup>とみながあさどう</sup>さんの作品<sup>さくひん</sup>がかざ<sup>か</sup>ざっています。
- Q5 **ぜんぶ** 梅花<sup>ばいげ</sup>の歌会<sup>かかい</sup>では、筑前国守<sup>ちくぜんこくしゅ</sup>をつとめていた山上憶良<sup>やまのうえのおくら</sup>、大宰帥<sup>だざいのそち</sup>の同伴旅人<sup>おおともたびと</sup>、観世音寺<sup>かんぜおんじ</sup>の別当<sup>べつどう</sup>であった沙弥満誓<sup>しゃみまんせい</sup>のほか、大宰府<sup>たさいふ</sup>や九州<sup>きゅうしゅう</sup>の官人<sup>くわんにん</sup>ら計<sup>か</sup>32人が歌<sup>うた</sup>を詠<sup>よ</sup>みました。どのような歌<sup>うた</sup>が詠<sup>よ</sup>まれたのか、歌碑<sup>かひ</sup>めぐりをして見てみましょう。
- Q6 3 **6月10日** 時の記念日<sup>ときのかんねんじつ</sup>は、天智天皇<sup>てんぢてんのう</sup>がおいた漏刻<sup>ろうこく</sup>（水時計<sup>みずどけい</sup>）が初めて時<sup>とき</sup>を刻<sup>き</sup>んだ日にちなんで6月10日<sup>じゅうごくとにち</sup>とされました。ちなみに、4月15日<sup>しがつにじゅうごふにち</sup>は隈廩公<sup>くまいのきみ</sup>のお墓<sup>はか</sup>の春まつり、9月1日<sup>くわがついちにち</sup>は八朔<sup>やっしゅく</sup>の千燈明<sup>せんとうめい</sup>がおこなわれる日<sup>ひ</sup>です。
- Q7 1 **菅原道真** 菅原道真<sup>みやこみさね</sup>が都<sup>みやこ</sup>から大宰府<sup>たさいふ</sup>へ左遷<sup>させん</sup>された際<sup>とき</sup>、隈廩<sup>くまい</sup>と紅姫<sup>べにひめ</sup>の2人<sup>ふたり</sup>の幼い子<sup>こ</sup>を連<sup>つ</sup>れてきたと伝えられています。榎社<sup>えのきしゃ</sup>には隈廩<sup>くまい</sup>のお姉さん<sup>あねさん</sup>の紅姫<sup>くわうとう</sup>の供養塔<sup>くわうとう</sup>がまつられています。
- Q8 **ぜんぶ** 太宰府天満宮<sup>たさいふあまのみや</sup>の絵馬堂<sup>えまどう</sup>、日吉神社<sup>ひよしんじ</sup>の拝殿<sup>はいでん</sup>、坂本八幡宮<sup>さかもへふたつ宮</sup>の拝殿<sup>はいでん</sup>に、萱島家<sup>かやしまけ</sup>の絵師<sup>えし</sup>が描<sup>えが</sup>いた絵馬<sup>えま</sup>がかけてられています。太宰府天満宮<sup>たさいふあまのみや</sup>の絵馬堂<sup>えまどう</sup>で、琵琶<sup>びわ</sup>をもった女<sup>おんな</sup>の人が描<sup>えが</sup>かれた絵馬<sup>えま</sup>をさがしてみましょう。
- Q9 3 **お父さん** 石堂丸<sup>いしどうまる</sup>が生まれる前<sup>まへ</sup>に出家<sup>しゅっけ</sup>したお父さん<sup>おとうさん</sup>を探<sup>たづ</sup>ねて、高野山<sup>こうやさん</sup>まで旅<sup>たび</sup>をしました。石堂丸<sup>いしどうまる</sup>はお母さん<sup>おははさん</sup>といっしょに旅<sup>たび</sup>しましたが、当<sup>た</sup>時は高野山<sup>こうやさん</sup>に女<sup>おんな</sup>の人が上<sup>あ</sup>ることができなかつたので石堂丸<sup>いしどうまる</sup>が一人で高野山<sup>こうやさん</sup>に上<sup>あ</sup>りました。
- Q10 1 **およそ100年前** 明治35年<sup>めいし</sup>（1902）の太宰府天満宮<sup>たさいふあまのみや</sup>の道真公御神忌<sup>みちまねこうごしんき</sup>一千年大祭<sup>いっせんねんたいさい</sup>がきっかけとなったと言<sup>い</sup>われています。当<sup>た</sup>時<sup>とき</sup>、博多<sup>はくた</sup>の人<sup>ひと</sup>などが大勢<sup>おほぜい</sup>でまちを練<sup>あそ</sup>り歩いて天満宮<sup>あまのみや</sup>を参拜<sup>さんぱい</sup>したほか、天満宮<sup>あまのみや</sup>の境内<sup>きんがい</sup>に梅<sup>うめ</sup>を植樹<sup>しょくじゅ</sup>する梅<sup>うめ</sup>いっぱい運動<sup>うんどう</sup>がおこなわれていたことが関係<sup>かんけい</sup>していると考え<sup>かんが</sup>られます。
- Q11 2 **しょうぶがうらこふん** グラウンドのところには菖蒲浦古墳<sup>しょうぶがうらこふん</sup>がありました。昭和51年<sup>しょうわ</sup>（1976）の太宰府南小学校<sup>たさいふなんしょうがっこう</sup>建設<sup>けんせつ</sup>にともな<sup>とも</sup>って発掘調査<sup>はつこくさぎ</sup>がおこなわれ、古墳<sup>こふん</sup>からは青銅<sup>せいどう</sup>の鏡<sup>かがみ</sup>や鉄<sup>てつ</sup>の剣<sup>つるぎ</sup>が見つかりました。
- Q12 2 **シャクナゲ** 夫婦桜<sup>めおとざくら</sup>と呼ばれる大きなヤマザクラ<sup>やまざくら</sup>が立つ「夫婦桜展望台<sup>めおとざくらてんぼうだい</sup>」への道<sup>みち</sup>ばたには、シャクナゲ<sup>しゃくなが</sup>が植<sup>う</sup>えられ、メモリアルパーク<sup>メモリアルパーク</sup>の人<sup>ひと</sup>たちが手入<sup>ていれ</sup>れをしています。シャクナゲ<sup>しゃくなが</sup>の花<sup>はな</sup>は、3月<sup>さんがつ</sup>のおわりから4月<sup>しがつ</sup>にかけて咲<sup>さ</sup>きます。

- Q13 2 **4曲** 11曲のうち、「観世音寺をたずねて」「雪の観世音寺」「寂光に佇ちて」「道真公」の4曲<sup>よんきょく</sup>の歌詞<sup>かし</sup>に観世音寺<sup>かんせいおんじ</sup>が登場<sup>ていじやう</sup>します。ほかにどのような文化遺産<sup>ぶんかいたさん</sup>が歌詞<sup>かし</sup>に入<sup>い</sup>っているのでしょうか。さがしてみましょう。
- Q14 2 **樽** 梅香苑<sup>ばいかうえん</sup>の子どもみこしは昭和57年<sup>しょうわ</sup>（1982）ころに始まり、当<sup>た</sup>時は樽<sup>たる</sup>を乗<sup>の</sup>せた質素<sup>しつそ</sup>なおみこし<sup>おみこし</sup>でした。その後<sup>そののち</sup>、地域<sup>ちいき</sup>の人<sup>ひと</sup>たちでみこし<sup>みこし</sup>を手作<sup>て</sup>りし、紅白<sup>こうはく</sup>の引き綱<sup>ひきあみ</sup>も編<sup>あ</sup>み、太鼓<sup>たいこ</sup>や法被<sup>はっぴ</sup>などがそろえられました。
- Q15 3 **かんのん** 三十三石仏<sup>さんじゅうさんいしぼつ</sup>に彫<sup>ほ</sup>られているのは、観音菩薩<sup>かんのんぼさつ</sup>です。観音菩薩<sup>かんのんぼさつ</sup>は、33の姿<sup>すがた</sup>に変身<sup>へんしん</sup>でき、人々<sup>ひとびと</sup>の困<sup>こま</sup>りごとを助<sup>たす</sup>けるとされています。
- Q16 3 **約40日** ヒキガエルの子<sup>こ</sup>は1か月あまりをかけた山頂<sup>さんちやう</sup>まで登<sup>のぼ</sup>ります。その年<sup>とし</sup>によって異<sup>こと</sup>なりませんが、だいたい5月<sup>ごがつ</sup>の後半<sup>こうはん</sup>に池<sup>いけ</sup>から上<sup>あ</sup>がりはじめ、6月<sup>じゅうごくと</sup>のおわりか7月<sup>しちがつ</sup>はじめには山頂<sup>さんちやう</sup>にたどり着<sup>つ</sup>きます。

## 太宰府市民遺産や文化遺産を知るための参考資料

### ◎各太宰府市民遺産解説リーフレット（無料で配布しています）

[配布している場所] 市役所文化財課・太宰府市文化ふれあい館・太宰府館・太宰府市 NPO ボランティア支援センター（太宰府市いきいき情報センター2階）



### ◎『太宰府市文化遺産情報』1～6（図書館などで見られます）

[見ることができる場所] 太宰府市民図書館郷土資料コーナー・学校の図書室・各区公民館

## ホームページ

### ◎太宰府市民遺産ポータルサイト [https:// 市民遺産 .jp/](https://市民遺産.jp/)

太宰府市民遺産の説明や、育成団体の活動を紹介しているホームページです。



### ◎太宰府市文化遺産情報 太宰府市公式ホームページにてID検索：0002760

太宰府市のホームページで公開している市内の文化遺産の情報です。

### ◎太宰府市民遺産を提案する場合の手続き 太宰府市公式ホームページにてID検索：0011993

## 太宰府市民遺産についての問い合わせ先

太宰府市景観・市民遺産会議事務局（太宰府市文化財課）

TEL 092-921-2121 FAX 092-921-3667



市民遺産の提案の相談も  
気軽に問い合わせしてね